

水性ポリエチレン樹脂塗料

水道施設向け拡販

成瀬化学

が湿潤状態でも塗布できる。

低臭気環境ホルモン物質を含まないので、環境への負荷や人体への影響が小さい。

同社はポリエチレン樹脂のエマルジョン（乳濁化）技術を生かし、03年に上水道施設用として同塗料を製品化した。施工業者の会員組織「ナルコ」ト工業会」（85社加盟）を通じて、普及に取り組んでいる。

【津】成瀬化学（三重県亀山市、成瀬喜英社長、05965・97・8300）は、上下水道施設の防食・防水塗膜材として使用する水性ポリエチレン樹脂塗料「ナルコ」トJW」の拡販に乗り出す。水道施設改修工事の需要増が公共工事関連中心に見込めるため。同塗料の仕様が水道用コンクリート水槽内面の水性ポリエチレン樹脂塗料の日本水道協会規格として制定されたことも追い風

とし、5年後に塗装面積で2014年度比4倍の約20万平方メートルを見込む。同塗料は水道用コンクリート水槽内面の防食・防水で主流のエポキシ樹脂系塗料などと違い、有機溶剤を使わないのが特徴。耐水性や柔軟性に優れ、コンクリートの下地

と、5年後に塗装面積で2014年度比4倍の約20万平方メートルを見込む。同塗料は水道用コンクリート水槽内面の防食・防水で主流のエポキシ樹脂系塗料などと違い、有機溶剤を使わないのが特徴。耐水性や柔軟性に優れ、コンクリートの下地

と、5年後に塗装面積で2014年度比4倍の約20万平方メートルを見込む。同塗料は水道用コンクリート水槽内面の防食・防水で主流のエポキシ樹脂系塗料などと違い、有機溶剤を使わないのが特徴。耐水性や柔軟性に優れ、コンクリートの下地

と、5年後に塗装面積で2014年度比4倍の約20万平方メートルを見込む。同塗料は水道用コンクリート水槽内面の防食・防水で主流のエポキシ樹脂系塗料などと違い、有機溶剤を使わないのが特徴。耐水性や柔軟性に優れ、コンクリートの下地